

## 日台の関係者127人が参加し意見交換 台中市で第11回「日台観光サミット」開催

日本観光振興協会とJATA、台湾観光協会は5月31日から6月3日までの4日間にわたり、台中市で「日台観光サミット in 台中 2018」を開催しました。

今回で11回目を迎え「いかに日台観光交流を拡大するか」をテーマに掲げた同サミットには、日本側からJATAの坂巻伸昭副会長をはじめとする旅行会社の関係者26人を含む127人、台湾側から97人、合わせて224人が参加しました。



台中での「日台観光サミット」に参加した両国の関係者

湾のアウトバウンド強化に向けた提案、風評被害の払拭・軽減に向けた取り組みなどについて意見を述べました。

サミットでは、日本政府観光局（JNTO）の小堀守理事と台湾交通部観光局東京事務所の鄭憶萍所長が、日台双方における観光の現状について報告しました。また、意見交換会でも、JATAの坂巻副会長が2020年の東京五輪に向けた日台間の協力について発言したほか、ジャルパックの藤田克己社長、日本旅行の堀坂明弘社長、小田急トラベルの佐々木文信社長が、リピーター対策や台

サミットの議長総括として、日台間における双方交流の拡大に向け、①双方の輸送能力増強、②食文化の発信やリピーター対策の強化、③今年11月から台中で開催される「台中フーローラ世界大会」や2019年のラグビーワールドカップ日本大会・2020年の東京五輪開催に向けた日台間の協力、などが確認されています。

2019年の第12回日台観光サミットは、富山市で開催される予定です。

## セミナーや商品化で新しい魅力の浸透を JOTICオセアニア部会がNZへ研修旅行

JATAアウトバウンド促進協議会（JOTC）オセアニア部会は6月9日から7日間にわたって、ニュージーランドへの研修旅行を実施、12名が参加しました。

今回の研修旅行ではニュージーランドの新たな魅力の浸透を目的に、第2のゴールデンルートに繋がる注目の3都市、ウェリントン、クライストチャーチ、ダニーデンを訪問。現地視察と各地方観光局によるプレゼンテーションが実施されました。

ウェリントンでは、映画『ロード・オブ・ザ・リング』や『アバター』などで、特殊効果製作を手がけた「ウェタ・ケープ」や、固

有種の鳥カカをなどの希少生物が生息する野生動物保護区「ジューランドディア」、洗練されたフェリーで南島に渡るインターアイランド号等を視察しました。

クライストチャーチでは、一般家庭訪問によるランチ体験、エイボン川でのパウンティング、トランツアルパイン号への乗車によるアーサーズ・パスなどを視察しました。クライストチャーチへの旅行者数は地震が発生した2011年以前の水準に回復しつつあり、今後1〜2年の間にホテル建設が相次ぐ見通しです。

ダニーデンでは、観光地専属ガイドの解



オークランドでの意見交換会にて

説によるラーナック城や、オタゴ半島の野生動物群生地ペンギンブレイスを見学。地方観光局からは、素材としてタイエリ渓谷鉄道の利用やマウントクックからダニーデンに向かうルート提案もありました。

滞在最終日のオークランドでは、現地支店やオペレーター12社も加わり意見交換会を開催、新しいルート開拓や、テーマ性を持った商品造成への取り組みに向けて最新情報の共有やプロモーションについて発信がありました。

オセアニア部会では研修旅行を通じて得られた情報を共有するセミナーの開催や、今回視察した3都市の商品化により、ニュージーランドの新しい魅力の浸透を図る方針です。